

IV 弥生人の生活

弥生時代は、大陸から伝えられた水田稲作が日本列島に定着していった時代です。朝日遺跡は、濃尾平野において、いち早く米づくりを始めた集落のひとつです。炭化米をはじめ、石包丁などの農具も出土しています。また、稲作以外にも食に関わる様々な遺物が出土しています。貝塚に含まれるハマグリ、カキやアジ、スズキ、サバなどの魚貝類、シカやイノシシなどの動物の骨は、漁労や狩猟が盛んに行われていたことをうかがわせます。



弥生時代中期の朝日集落



石包丁



石鏝がささったシカの骨

関連事業

★サテライト展示「朝日遺跡のはじまり」(清須市主管事業)
会期 2月9日(土)～5月19日(日)
会場 清須市立図書館1階 歴史資料展示室 〒452-0961 清須市春日夢の森1
開館時間 午前10時～午後7時
休館日 月曜日(該当月曜日が休日の場合は次の平日)及び館内整理日(2月28日(木)、3月29日(金)、4月26日(金))
観覧料 無料
内容 朝日遺跡の発掘調査の原点ともいえる貝殻山貝塚の調査資料を中心に朝日遺跡の姿を紹介します。

★きよす歴史スタンプラリー(清須市主管事業)
開催日 国重要文化財指定記念展開催期間中(3月20日～5月19日)の土・日・祝日
場所 愛知県清洲貝殻山貝塚資料館(ゴール)、清洲城、清須市歴史資料展示室、西枇杷島開原記念館
内容 清須市の文化・歴史に関する施設3ヵ所以上をめぐり、スタンプを集めます。ゴールした方に国重要文化財指定数にちなみ、先着2,028名様(2028)に記念品を進呈します。

★重要文化財指定記念講演会(清須市主管事業)
日時 3月23日(土) 午後1時～午後3時30分
場所 清洲市民センター・集会室 〒452-0942 清須市清洲弁天96-1
講師・演題 加藤安信(清須市文化財保護審議会委員)「朝日遺跡の調査と価値」柴垣勇夫(愛知淑徳大学教授)「貝殻山貝塚から朝日遺跡へー40年前の思い出ー」
定員 150人 **参加費** 無料 **申込** 清須市教育委員会事務局生涯学習課(電話:052-409-6471)

★関連講座
日時・内容 第1回 4月20日(土) 午後1時～午後3時
 ①原田幹(愛知県教育委員会文化財保護室)「重要文化財になった朝日遺跡出土品」
 ②永井宏幸(愛知県埋蔵文化財センター)「謎の円窓付土器から交流をかんがえる」
 ③樋上昇(愛知県埋蔵文化財センター)「朝日遺跡出土品からみた人と木の関わり」
 第2回 4月27日(土) 午後1時～午後3時
 ④原田幹(愛知県教育委員会文化財保護室)「石のヤシロの身の上話」
 ⑤川添和暁(愛知県埋蔵文化財センター)「朝日遺跡の骨角製漁具について」
 ⑥宮腰健司(愛知県埋蔵文化財センター)「朝日遺跡の銅鐸、青銅製品」
 *講座修了後、貝殻山貝塚資料館に移動し、講座講師によるギャラリートークを実施します。
場所 清洲市民センター・視聴覚室 〒452-0942 清須市清洲弁天96-1
定員 50人 **参加費** 無料 **申込** 愛知県教育委員会文化財保護室(電話:052-954-6782)

★講演会・シンポジウム
日時 5月18日(土) 午後1時～午後4時
場所 清洲市民センター・ホール 〒452-0942 清須市清洲弁天96-1
講演会 講師 深澤芳樹(奈良文化財研究所副所長)
 演題 「朝日遺跡、東海に花開いた弥生文化」
シンポジウム 「朝日遺跡、弥生時代の技術と社会」
 司会 石黒立人(愛知県埋蔵文化財センター)
 パネラー 深澤芳樹、宮腰健司、永井宏幸、樋上昇、川添和暁、原田幹
定員 350人 **参加費** 無料 **申込** 不要



■交通案内 東海交通事業城北線尾張星の宮駅から 徒歩10分
 名鉄名古屋本線新清洲駅から 徒歩30分
 JR東海道本線清洲駅から 徒歩35分
 きよすあしがるバス ピアゴ清洲店前停留所下車 徒歩5分
 名古屋第二環状自動車道清洲東ICから 車で約5分

各事業の詳細は下記ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/asahi/>

国重要文化財指定記念展

朝日遺跡

よみがえる弥生の技

平成25年 **水祝** 3月20日～5月19日(日)
愛知県清洲貝殻山貝塚資料館
 〒452-0932 清須市朝日貝塚1 TEL 052-409-1467

開館時間 午前9時30分から午後4時まで
休館日 毎週月・火曜日【ただし4月29日(月)、5月6日(月)は開館】
 *記念展開催中は、通常の開館日を変更します。
主催 愛知県教育委員会、清須市、清須市教育委員会、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター

東海最大の弥生集落-朝日遺跡

朝日遺跡は、清須市、名古屋市西区に所在する、弥生時代の大規模な環濠集落です。これまで、逆茂木・乱杭などからなる強固な防御施設、埋納された銅鐸、玉作りの工房跡など、重要な発見が相次ぎ、東海地方を代表する弥生集落として、その名が知られるようになりました。発掘調査では膨大な遺物が出土し、これらの出土品は、弥生時代の多様な生業、生産・流通の様相を考証し、精神生活を推察するうえで極めて重要な資料として評価されています。



円窓付土器

朝日遺跡の防御施設と戦い

弥生時代には、集落間や地域をこぎ交わす河川もなく障り越えられし朝日遺跡は、環濠と土堀、木柵、逆茂木、乱杭など多層防御施設が、全国で初めて発見された遺跡です。

問い合わせ先

愛知県教育委員会 生涯学習課文化財保護室
 TEL 052-954-6782

朝日遺跡インターネット博物館
<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/asahi/>

I 謎の円窓付土器

体部上位に大きな楕円形の穴をもつ壺形の土器。この土器は、尾張地域を中心に分布し、その大半は朝日遺跡から出土しています。

この特異な形の土器がどのように使用されたのか、その具体的な用途はまだ解明されていません。多くは墓域とその周辺から出土していること、焼成後に穿孔されるものがあるなど、墓に供えられていた土器と共通する特徴が認められることから、墓域での祭祀に関係した土器ではないかと考えられています。



円窓付土器

●石の工芸品～石器・石製品

金属器が登場した弥生時代にあっても、まだ石器は必要な道具でした。緑色の硬い石を研ぎ出してつくられた石斧、ガラス質の下呂石でつくられた大型の石鏃は、朝日遺跡の代表的な石器です。

また、朝日遺跡では、勾玉・管玉などの玉類をつくった工房跡が見つかっています。ヒスイや琥珀の原材を持ち込み、玉作りに従事した専門の工人集団がいたようです。



勾玉・管玉

II 発掘調査のあゆみ

- 昭和46年 貝殻山貝塚周辺の発掘調査、国史跡指定
- 昭和47～平成元年 環状2号線建設にともなう発掘調査
- 平成7・8年 貝殻山貝塚資料館拡充整備計画に伴う発掘調査
- 平成10～19年 近畿自動車道名古屋関線清洲JCT建設他にともなう発掘調査



初めてみつかった防御施設・乱杭



弥生時代最大規模の貝層



日本最古のヤナ状遺構

III 東海弥生文化の至宝

平成24年、国の文化審議会の答申を受け、愛知県教育委員会および愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査で出土した主要な遺物2,028点が国の重要文化財に指定されました。その内容は、土器・土製品727点、木器・木製品253点、石器・石製品650点、ガラス小玉121点、金属製品37点、骨角牙貝製品240点と多岐にわたります。



木製農具

●弥生の匠～木製品

弥生時代の生活では様々な木の道具が用いられていました。鍬・鋤・杵などの農具、高杯・鉢などの容器類、あるいは武器や動物をかたどった祭祀具が出土しています。これらの木製品には、原材や加工途中のものもあり、集落のなかで木製品の製作も行われていたようです。



銅鐸



巴形銅器

●精緻な芸術品～骨角製品

貝塚が多く残されている朝日遺跡では、動物の骨・角・牙でつくられた骨角製品がたくさん出土しています。モリ・ヤス・釣り針などの漁労・狩猟具、鹿の角やイノシシの牙を加工したアクセサリーのほか、卜骨など祭祀に用いられた道具もあります。

装飾品に施された細かな彫刻は、工芸品としても高い技術をうかがうことができます。



牙・角でつくられたアクセサリー

鹿角製モリ

●弥生の造形～土器・土製品

弥生土器には、ものを貯える壺、煮炊きするための甕、食べ物を盛りつける高杯というように、機能・用途に応じて器の形が決まっており、それらを組み合わせて使用していました。

弥生時代後期には、ベンガラを塗った赤彩土器が使われていました。その美しい装飾から、パレス・スタイル土器と呼ばれ、この地域を特徴付ける土器となっています。



赤彩土器（パレス・スタイル土器）